

2023年度

| | | | |
|--------------------|--------------------|---------|---------|
| ①リサイクル量 | トン | 2,607.4 | |
| 店 舗 | 野菜・肉の加工くず堆肥化(外部委託) | トン | 10.5 |
| | 肉の加工くず飼料化(外部委託) | トン | 90.3 |
| | 魚アラの飼料化(外部委託) | トン | 397.4 |
| 食品工場 | パン耳等の飼料化 | トン | 183.0 |
| | おからの乾燥・飼料化 | トン | 422.5 |
| | おからの乾燥(水分量) | トン | 1,455.9 |
| | 廃油(余剰分回収) | トン | 47.8 |
| ②食品廃棄物の廃棄量 | トン | 1,425.4 | |
| リサイクル率 ①÷(①+②) | % | 64.7 | |
| 食品リサイクル法上の再生利用等実施率 | % | 73.4 | |

※食品リサイクル法上の再生利用等実施率には、発生抑制量などが勘案されています。

1. 店舗でのリサイクルについて

兵庫県内の59店舗から食品残さなど(野菜と肉の加工くずや、とうふやめん類などの期限切れ品)を回収しています。回収した食品残さなどは、三木市にある大栄環境(株)三木リサイクルセンターで、堆肥製造の原料として活用されています。製造された堆肥は、(株)コープエコファームで使用され、収穫した農作物はコープこうべの店舗や宅配で供給されています。

<https://www.coop-ecofarm.jp/>

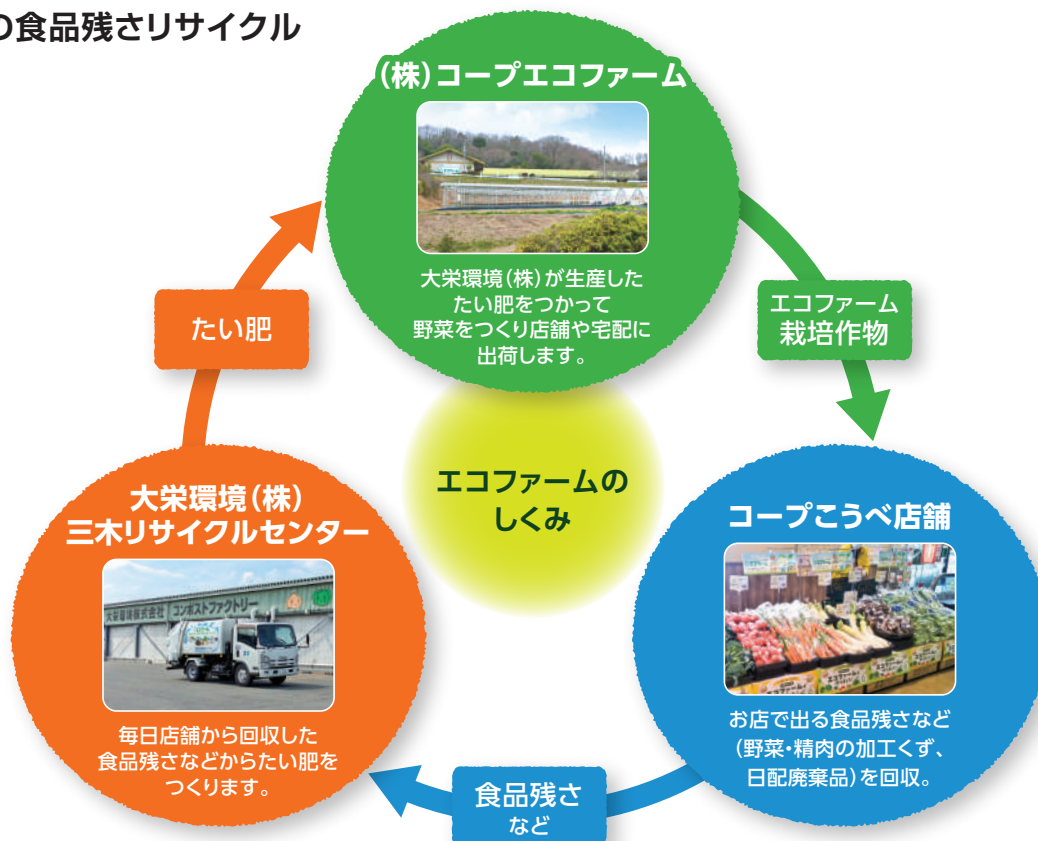
2. 食品工場でのリサイクルについて

①豆腐製造の際に発生する生おからを乾燥し、飼料の原料として売却しています。

②おから以外の食品廃棄物を分解し、その過程で発生するメタンガスを取り出し、工場内の燃料として活用しています。

堆肥化

店舗での食品残さリサイクル



フードドライブの取り組み

フードドライブ常時受付、集中受付キャンペーンの展開

| | | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|-------|----|-------|-------|-------|
| 食品回収量 | トン | 約20 | 約54 | 約55 |

※食品リサイクル法上の再生利用等実施率には、発生抑制量などが勘案されています。

店舗でのフードドライブ常時受付

家庭の余剰食品を持ち寄ってフードバンクに提供する「フードドライブ」を推進しています。2021年4月よりコープミニを除く全ての店舗で常時受付を開始。（※コープミニルミナス箕面は実施）

